

文星閣

環境十高品質の先駆者として 水なし印刷の生産量が年一億万枚に



中嶋社長 (左) と瀬高部長

今年3月で会社設立70年を迎え、来春に新工場を竣工する(株)文星閣は、水なし印刷を先駆けて取り組んできた企業。本社工場には、菊全水なし印刷機5台、うち片面5色機が2台と、UV印刷機3台の計8台が、24時間、年間355日稼働し、薄紙から0.8mmの厚紙まで対応している。加えてテ

スト機の水なしUV対応菊全4色(片面機)も設置している。「水なし印刷に関しては他社を凌ぐ水なし印刷物を生産しています」と語る中嶋幸保社長の言葉通り、同社の水なし印刷の生産枚数は年間1億万枚(菊全判)に達する。同様に、水なし印刷と並行してカーボンオ



リスロンS540SPに提示されている水なし印刷のマーク



水なし印刷のリスロンG540

フセットにも積極的に取り組んでいる。同社が水なし印刷を始めたのは1985年(昭和60年)に遡る。印刷品質のコントロールを難しくしている原因である「水」を使わない新しい印刷技術として「水なし印刷」に注目し、品質を安定させ、印刷現場のスキルレスを目指したことが水なし印刷導入のきっかけだった。

しかし、1997年、気候変動枠組条約の第3回締約国会議(COP3)が京都で開催され、「京都議定書」が採択されたことで、環境への対応が注目されるようになる。印刷業界においても、湿し水を使わないことで、有害物質を含む廃液を削減できる「水なし印刷」に注目。環境報告書へ記載できる環境対応マークの一つとして水なし印刷の「バ

く、高品質であることもポイントで、1997年、気候変動枠組条約の第3回締約国会議(COP3)が京都で開催され、「京都議定書」が採択されたことで、環境への対応が注目されるようになる。印刷業界においても、湿し水を使わないことで、有害物質を含む廃液を削減できる「水なし印刷」に注目。環境報告書へ記載できる環境対応マークの一つとして水なし印刷の「バク、高品質であることもポイントで、1997年、気候変動枠組条約の第3回締約国会議(COP3)が京都で開催され、「京都議定書」が採択されたことで、環境への対応が注目されるようになる。印刷業界においても、湿し水を使わないことで、有害物質を含む廃液を削減できる「水なし印刷」に注目。環境報告書へ記載できる環境対応マークの一つとして水なし印刷の「バ

SDGs時代の環境印刷

3-3754-8370

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12

区久が原2-12-12